



大島上人壇出土の壺

ものは径二七メートルほど、これは何か十三仏信仰による構築ではないかとも思われるが、現在は塚の上に小祠、石塔すら祭つてはない。旧鶴沼川跡の氾濫地で、開墾のためのだんくらとみえるが、何か信仰・供養の意図もあったのか知れない。現在は何も伝承は聞かれない。

このように、塚は多いが古墳として確認できるものは田村山古墳で、しかも小さいながら日本特有の前方後円墳の形態も、破片になつたとはいえ、出土品の保存されていることは、北会津村の古墳時代の開拓が、相当進んでいたことを物語る貴重なものである。

四、恵日寺のいなばつ政治

中央の政治では大化二年（六四六）大化の改新の詔がでて、班田制が始まり、条里制が布かれるが、みちのくでは、まだ豪族が割拠した、古墳時代がつづいていたかと思われる。天平十三年（七四一）国分寺、国分尼寺を造らしめたとあるが、会津地方ではまだその伝承を聞かない。仏教の伝来については梁の僧青巖が根岸の里に欽明天皇元年（五四〇）庵を結ぶとある。現在の高寺にあつた、塔寺惠隆寺の前身であろうといわれるが、現在その遺跡をみつけることは容易でない。これが史実とすれば、日本へ仏教が伝來した欽明天皇十三年より十年ほどさかのぼることになり、裏日本方面からの伝来とも思われるが、確証はない。

会津地方には、国分寺の名のつくものはなかつたが、それに代るべきものは、現在磐梯山麓の本寺にある恵日寺ではなかつたかと思わせるふしがある。